

# 中小企業景況調査結果

【平成 27 年 10 月～12 月】

平成 28 年 1 月  
富士商工会議所調べ

## ◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。  
製造・建設・卸売・小売・サービス業の 5 産業、207 事業所(回収率 63.3%)を対象に、  
「平成 27 年 10 月～12 月」の 3 ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別  
にまとめた。

### DI (景気動向指数) とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、  
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…27 年 7 月～9 月    今期…27 年 10 月～12 月    来期…28 年 1 月～3 月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

## ◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲21.3	→	▲25.4 (▲34.9)	→	▲25.5
売上	▲17.0	→	▲15.3 (▲17.8)	↗	▲9.3
採算	▲27.6	→	▲27.7 (▲41.0)	→	▲25.6

今回の調査では、全産業合計の業況 DI は弱含みの横ばい、売上 DI は強含みの横ばい、採算 DI は横ばいとなった。また、今期の主要 DI を産業別にみると、小売業の業況・採算 DI が厳しい状況となっており、特に採算 DI はマイナス 57.9 ポイントとなった。

来期予測に関しては、全産業合計の売上 DI は上昇、採算 DI は強含みながらも横ばい、業況 DI は横ばいと、予測している。主要 DI を産業別にみると、サービス業のみが全て下降すると予測している。

また、今回のコメントでは、政策に対するコメントもいくつか寄せられており、特に最低賃金の目標が具体的に示されたことによる中小零細企業への影響が懸念されている。

経営上の問題点では、全ての産業で「売上減に伴う利益減」が上位に入っており、特に小売業は売上減に伴う問題点が 1・2 位を占めている。また、小売業以外の産業では「設備老朽化」が上位に入っている。

◇ 全産業の動き ◇

**〔業況のDI〕** サービス業は上昇。卸売業は横ばい。製造業、建設業、小売業は下降。

来期、製造業、建設業、小売業は上昇を予想。卸売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲11.8	↘	▲23.7 (▲21.6)	↗	▲10.5
建設業	▲13.0	↘	▲22.8 (▲18.2)	↗	▲13.7
卸売業	▲19.1	→	▲18.2 (▲52.6)	↘	▲31.9
小売業	▲31.8	↘	▲42.1 (▲41.6)	↗	▲26.3
サービス業	▲33.3	↗	▲24.1 (▲48.2)	↘	▲50.0
全産業	▲21.3	→	▲25.4 (▲34.9)	→	▲25.5

**〔売上高のDI〕** サービス業は上昇。製造業、卸売業、小売業は横ばい。建設業は下降。

来期、建設業、小売業は上昇を予想。製造業は横ばいを予想。卸売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲3.0	→	▲2.6 (▲10.8)	→	0.0
建設業	▲13.1	↘	▲31.8 (0.0)	↗	9.1
卸売業	▲14.3	→	▲18.2 (▲36.9)	↘	▲31.8
小売業	▲29.2	→	▲26.3 (▲45.9)	↗	5.5
サービス業	▲29.6	↗	▲10.0 (▲3.7)	↘	▲27.6
全産業	▲17.0	→	▲15.3 (▲17.8)	↗	▲9.3

**〔採算のDI〕** 建設業、卸売業は上昇。サービス業は横ばい。製造業、小売業は下降。

来期、建設業、小売業は上昇を予想。卸売業は横ばいを予想。製造業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲6.1	↘	▲13.5 (▲47.2)	↘	▲18.9
建設業	▲43.5	↗	▲31.8 (▲31.8)	↗	▲9.1
卸売業	▲38.1	↗	▲31.9 (▲52.6)	→	▲36.4
小売業	▲37.5	↘	▲57.9 (▲43.5)	↗	▲21.0
サービス業	▲23.1	→	▲20.0 (▲29.6)	↘	▲41.4
全産業	▲27.6	→	▲27.7 (▲41.0)	→	▲25.6

## ◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

### 〔製造業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…「出版業界の低迷により印刷用紙需要が減少している為、売上減となっている。当面は製紙各社によるシェア獲得競争が続く。」「相変わらずの低調」などの厳しい声が寄せられた。

『紙加工』…「業界全体が冷え込んでおり、明るい兆しはない。」「年末に向け、例年同様受注量は増えているが、業界全体の萎縮ムードは変化なし。」との声。また、「輸入紙の取扱量が増加傾向にある。」との情報。

『機械器具』…自動車関連は「トラック関係がやや減産となったが、東京オリンピックまでは好調に推移する見込み。」「大型トラックの販売は堅調に推移したが、中型トラックが伸び悩み、全体を押し下げた。」「一部の自動車メーカーは好調の様だが、軽自動車は頭打ち状態。」との情報。また、「海外生産の増加により国内パーツも減少しているため伸びがない。」との声や「原油価格の下落により電気・ガス・油が値下がり、経費削減に期待できると思うが、自動車部品の減少傾向が気になる。」とのコメント。

機械関係は「民間需要はあまり良くないが、官需（下水道関連）は増加傾向にあり、今後も期待できそうである。」との声や「業界の景況は昨年度と不変。今後も同様に推移すると予想している。」「建設関連需要は引き続き堅調に推移するが、伸び率に一服感がみられる。」とのコメント。また、「12月の仕事量は毎年多いように思う。年が明けて3月までの間は変化がないと思う。」「少しずつだが仕事量が増加してきた。（射出成型機、工作機械等）。今後も株高、円安が続けば中小企業も多少良くなると思う。」「業界全般に不調であるが、当社の受注は増加しており先行きは明るい。」との声の一方、「親会社の不振により生産減」と厳しい声も寄せられた。

『機械部品加工』…「工作機械部品等の受注は大きな落ち込みはなく順調と思われる。」との一方、「工作機械メーカーの動向は、北米向け、中国向け等の減少に伴う在庫調整により、全般的に生産量が20%程度減少している。その他、過当競争に伴う正常な利潤が得られない見積り案件が続いている。」また、来期以降についても「在庫調整が続き、20%程度生産量を減少する計画がある。4月以降は不透明である。」との声。

『繊維加工』…「特別大きな変動はないと考えている。」とのコメント。

『印刷関係』…「設備投資をして生産性があがっているところへ仕事が流れている。」との声。また、「全般的にペースアップ、有効求人倍率アップと評されているが、中小企業・小規模事業所には波及していないと思う。この先企業間格差が益々進むと思われる。」とのコメント。

『食品』…「年末年始の需要が見込まれ一時的に安定すると予測できるが、以後の売上は低迷するであろう。」「今年の国内産原料は天候不順により作柄が悪く、期待が薄い。中国への依存が益々増えており、不安である。」「中国からの原料価格が上昇している。これを販売価格に転嫁できないと苦しい。」との声や「今後、売上増加はあまり期待できない。大企業中心の政策により、中小零細企業は淘汰され、厳しい状況になると思われる。」「2度目の最低賃金の底上げにより、中小零細は非常に厳しい状況が続く。賃金アップは必要だと思うが、強いものを更に強くするよりは幅広く底上げをする政策に期待したい。」など政策についてのコメントが寄せられた。また、「地域でのマルシェなどの開催、出店で顧客とのつながりを保っていききたいと考えている。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	10.5	55.3	34.2	▲23.7	上昇
売上高	34.2	28.9	36.8	▲2.6	横ばい
採算	21.6	43.2	35.1	▲13.5	下降

## 【建設業】 景気ムード…【厳しい状況】

『一般住宅』…「大手メーカーは好転の様子。」との情報。

『総合建設』…「公共工事の発注が少なく、民間の設備投資も少ない。」「受注価格の低下により粗利の減少」「ダンピング受注の影響により悪化が続く傾向。」また、今後についても「期待できない。」との声が多く寄せられた。

『建設関連』…「都市部と比べ、地方には建設等の仕事が少ないと思う。」「需要増の為に設備を更新するケースはあまりないが、省エネ減税または一括償却のために設備投資するケースはある。」との声。また、「子育て・介護問題対策としての3世代同居施策が効果的に実施されればリフォーム等は増える可能性はあるかもしれない。しかし、核家族の新築は減少する恐れがある。」とのコメント。今後について「受注の減少、人材不足などで見通しは暗い。」「来年は仕事量が増えてきそうだが、人材人員不足が続き、仕事があっても回せない状況になると思われる。」「オリンピック景気による原材料高が懸念される。」との声が寄せられた。また、「来年、富士市にビジネスホテルが3件ほど建つ予定である。」との情報や「企業誘致、慰留が最重要課題になると思う。」とのコメント。

『土木関連』…「技能熟練者の高齢化により、次期現場作業指揮者の不足が憂慮される。若年作業者が種々の現場に対応できるようになるには10年程かかる。若者の育成をどうするかが今後の課題である。」「建設、土木、解体業は、年度末までは忙しい状態が続くと思われる。しかし、東京オリンピック開催による都内の建築ラッシュで人材不足が深刻化している。」とのコメント。また、「公共工事の復活が見られず、むしろ減少状況にあると思われる。」「受注金額が競争激化により厳しくなっている。」今後についても「期待できない」との声が寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	4.5	68.2	27.3	▲22.8	上昇
売上高	9.1	50.0	40.9	▲31.8	上昇
採算	9.1	50.0	40.9	▲31.8	上昇

## 【卸売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』…「受注案件、引合い数が増加傾向。来年は良い年になると期待している。」との声や「勝ち負けの顕在化。今後においても『負け組』は増えると思われる。」とのコメント。

『自動車部品』…「業界の動向は10月の売上が前年同月比で3%程度の増、11月は伸び率ゼロである。11月は3年前、6年前の国内の車両販売低下が、車検台数の減少というかたちで影響しているとの見方が多い。今後も若者の車離れなどもあり、見通しはあまりよくない。」との声や「チャイナショックの影響は他の地区に比べて小さいが、自動車部品業界の海外進出による国内生産の減少が業界に影を落としている。この地区には製紙業、自動車関連業に続く新しい分野の産業創出が必要だと思う。」とのコメント。

『建築材料』…「建設業界においてはアベノミクスの良い影響が少しずつ形となって現れてきている反面、円安による仕入価格の上昇がどこまで続くか不安もある。」「未だに価格競争に走り、必要以上に安い金額で受注をしていく会社がある為、なかなか適正価格での受注が難しい。」との声。

『紙』…「紙の使用量の減少傾向は続くと思う。需要低迷の中、在庫処分の投売りが出てくると思われる。」「印刷業界はデジタル化等による需要の低下で、前年度割れが続いている。インターネットで注文をとる印刷屋に仕事を奪われている為、二重苦となっている。」と厳しい声。今後についても「先行き不透明。」「見通しは暗い。」「板紙は多少良いかもしれないが、家庭紙・洋紙はしばらく苦戦を強いられる可能性が大きい。」との声。

『製紙原料』…「製紙業界の減産基調が一層強まって来ている。従って古紙需要も段ボール中心に引合いがトーンダウンしている。」「世界的な資源安の中で、古紙についても中国経済の減速による影響が出始めていると感じる。今後も中国経済の減速によって、どの程度中国からのオファーが減少していくかがポイントだと思う。」「一般紙は益々需要が減っていくと思われる。」とのコメント。

『再生資源』…「輸出に頼っていた鉄スクラップは、中国の経済停滞により悪化。非鉄スクラップは原油安、世界経済悪化の為、国際商品相場の下落に繋がっている。」「相変わらず中国の過剰生産、安売りが鉄鋼業の世界的不況を招いており、当面改善の見込みなし。」との声。また、「国内の製鉄所では減産が続き、原料となるスクラップの発生も一段と少なくなった。その影響により業界は価格の下落と扱い量が減少となり、経営難に陥っている。全国的に数社の倒産も出てきた。」との情報。

『工業薬品』…「製造業、生産工場の縮小や移転統廃合により大手の寡占状態が続くと思われる。」「通販や無店舗販売等、販売方法の多岐に渡る形が卸売業には厳しい時代となっている。価格競争も含め厳しさが一層増すと思われる。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	4.5	72.7	22.7	▲18.2	下降
売上高	13.6	54.5	31.8	▲18.2	下降
採算	4.5	59.1	36.4	▲31.9	横ばい

## 〔小売業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…「かなり厳しい状況である。メーカーも厳しく、見通しが見つからないので商品をあまり余分に作らなくなり、追加も厳しい。」「メーカーの大幅な値上りに対応した価格が付けにくい。消費者は価格にシビアである。」「仕入価格上昇が続いているが、販売価格転嫁できず、益々資金面を圧迫している。」来期についても「厳しい状況は続くと思われる。」「売上増に繋がる努力はしているが先が見えない。」との厳しい声。また、「人口減少・高齢化の影響が、消費量に繋がり始めるのではないかと懸念の声。呉服は「主要な産地である京都では減産が進み、荷動きも悪い。一般的な着物の実需が盛り上がらない。」との情報。

『各種食料品』…茶は「年末の販売は伸びると思う。原発事故以降の消費減退が響いている。」との声。

『日用品・雑貨』…文具は「例年、年度末に向かって業界は活発になるが、近年官公庁の予算が縮小している為、心配である。」との声。

『金物・荒物』…「一部のメーカー製ポット類が、中国のインバウンドの影響により入荷困難になっている。」や「商店街において、青年部を中心にネット販売勉強会を一年間行った。次年度はランクアップし、個店にあったネット販売講座を行う予定である。さらに、次の段階では商店街による協同ネット販売方法まで考えている。」との情報。

『自動車』…「国内生産は2014年6月以来、16ヶ月ぶりに増加に転じた。軽自動車税増税の影響は依然として残るが、輸出の増加などで台数を引き上げた。」「環境性能、安全性能などの装備が付いた車両は、価格が上がっている為、年式の古い車を乗り続ける状況になっていると感じる。」とのコメント。

『家電』…「リオ・東京オリンピックを大迫力で楽しむ大画面・4Kテレビを訴求していきたいと考えている。また、エコナビ機能の付いたエアコンなどを常にアピールし、エコ社会に貢献したい。」との声。

『自転車』…「輸入台数は前年並みだが販売台数はマイナス。スポーツ車もピークに達し、平均売価もダウンした。」今後についても「度々の値上げで消費者は品質・機能の良し悪しではなく、安価志向(20,000円~30,000円)商品が中心になりそうだ。」とのコメント。

『機械器具』…「今は悪くないが、4月以降が見えない。」との声。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	0.0	57.9	42.1	▲42.1	上昇
売上高	15.8	42.1	42.1	▲26.3	上昇
採算	0.0	42.1	57.9	▲57.9	上昇

## 【サービス業】 景気ムード…【厳しい状況】

『ホテル』…「観光が少しずつ伸びていると感じている。さらに誘客できるよう、企業・行政・地域で観光やイベントに力を入れていただきたいと思う。」とのコメントや「ビジネス需要が、少し動き出したように思える。」との声。

『飲食』…「10、11月は軽トラ市、まつり等のイベントが続き人出も多く、それぞれに売上も増した。しかし、平日の商店街は閑散としており、個店だけでは解決できない状況である。」との声。また、「最低賃金の具体的な目標を示されたが、中小零細企業の動向が心配である。零細企業は現在の消費税8%にも苦しんでいるのに賃金値上げは納得できない。」とのコメント。

『衣類等クリーニング』…「顧客の低価格志向が続いており、利益率を圧迫している。留守家庭が増え、従来の経営形態が成り立たなくなっている。」との声。

『運輸・倉庫』…「軽油価格の値下がりによって、事業自体はかなり正常化された。しかし、若年層の業界流入が止まっており、人材・人員不足問題の解消までにはしばらく時間がかかると思われる。」とのコメント。

『不動産』…「土地は徐々に動き始めてきた。消費税が再度上がるまでは、駆け込み需的的なものがあるのではないと思われる。」「郊外流通店舗が建替えの時期にきており、それに伴う仕事が出てきた。」「新規開店も見受けられるので、少しずつ変化し始めているかも知れない。」との声の一方、「一般住宅向け、宅地造成分譲事業は順調だが、市全体で見ると需要の減少傾向にあると思われる。」「農家の後継者不足などで土地が売却され、分譲地はできるが売却には時間が掛かっている。土地を手放したい人は多いが、買い手が少なく仲介も思うようにならない。」「宅地造成は一見して増えている様だが、市外の大手住宅メーカーの参入が増えており、市内企業は先細り感がある。」など厳しい声も寄せられた。

『求人広告』…「前年対比で売上減少傾向が見られる。競合他社による値引き商戦となっている。利益確保のため薄利多売へ移行しつつある。」とのコメント。

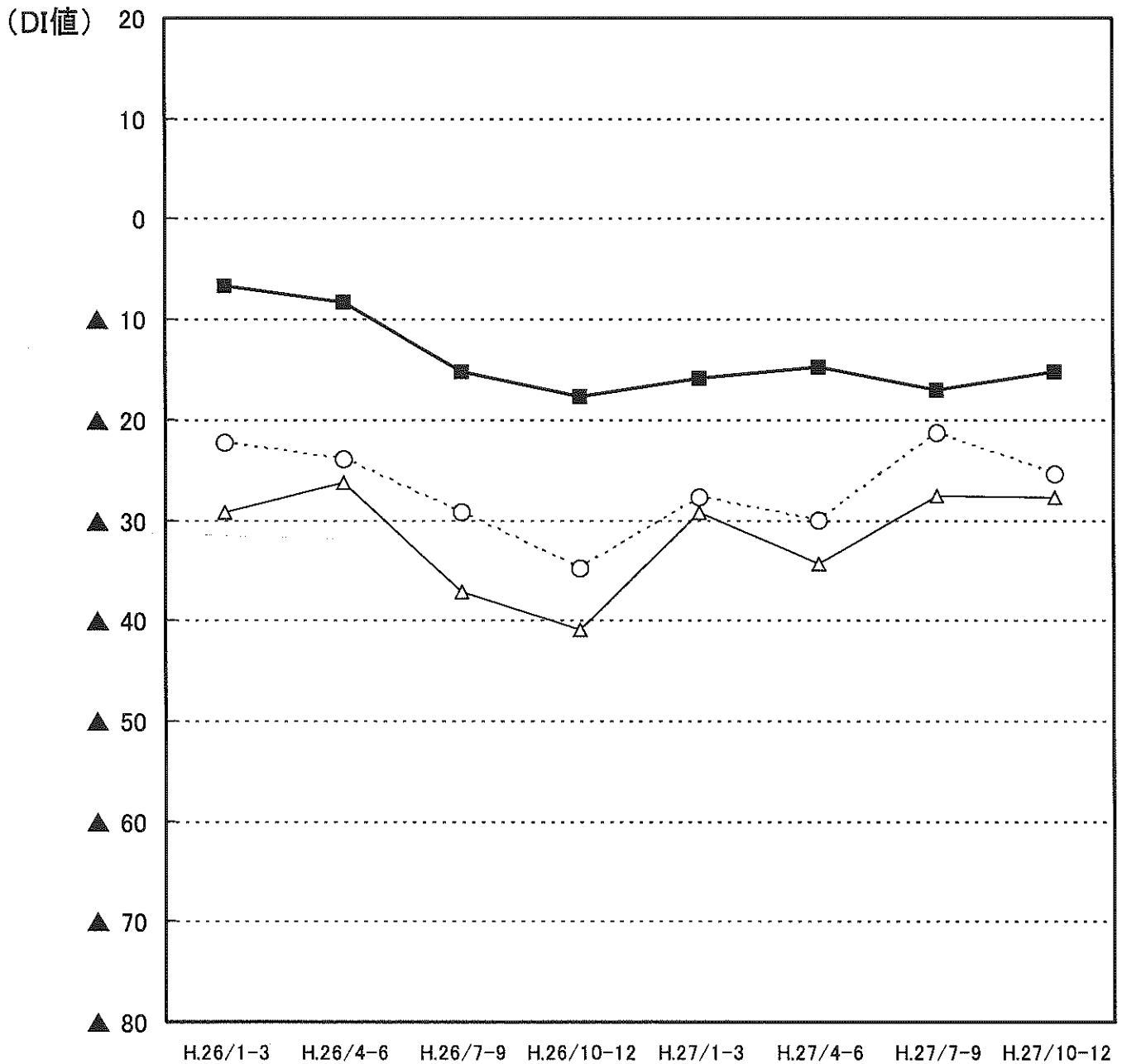
『印刷デザイン』…「業界の存在が薄く、ニーズの変化に対応しきれていないように思う。」とのコメント。

『専門サービス』…社会保険労務士事務所は「過当競争が激しく厳しい状況」との声。税理士事務所は「過当競争による価格下落傾向。中小企業の廃業等により市場の縮小。」「税理士数は増加し、企業数は減っているため必然的に競争が激しくなり、価格競争などもおこりつつある。現状、資格をとっても開業しない税理士も増えており、今後もこの状況は続くと思われる。一方、ノウハウが蓄積され、組織的に安心感のある税理士法人に仕事が集まる傾向がある為、二極化が始まると思われる。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	20.7	34.5	44.8	▲24.1	下降
売上高	20.0	50.0	30.0	▲10.0	下降
採算	26.7	26.7	46.7	▲20.0	下降

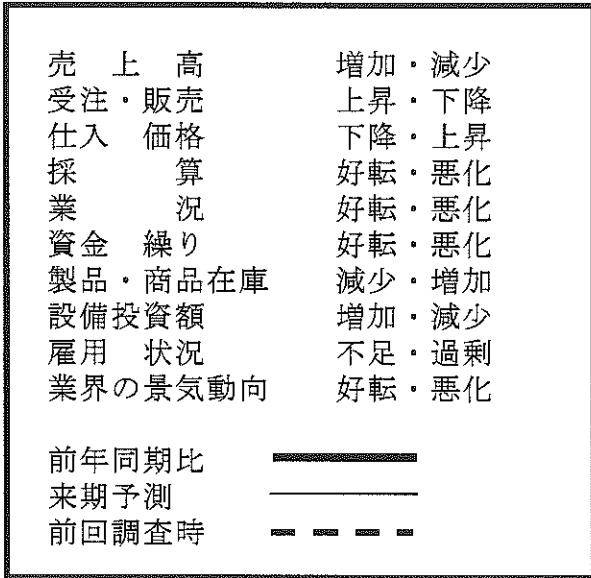
# 全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上    ○ 業況    △ 採算

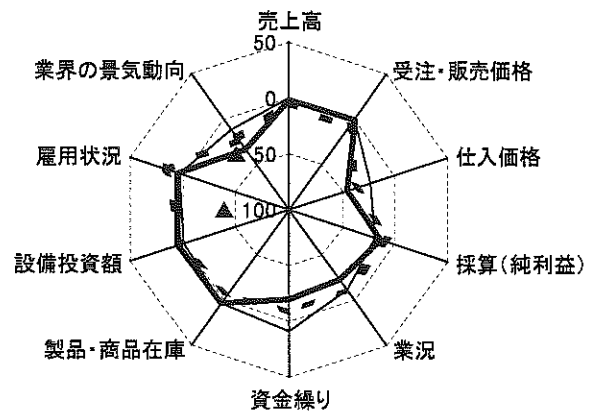


(調査期間)

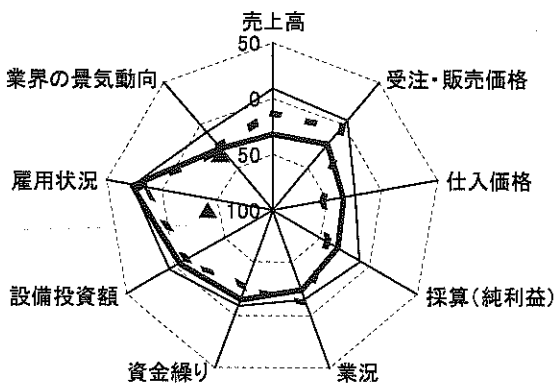
# レーダーチャート



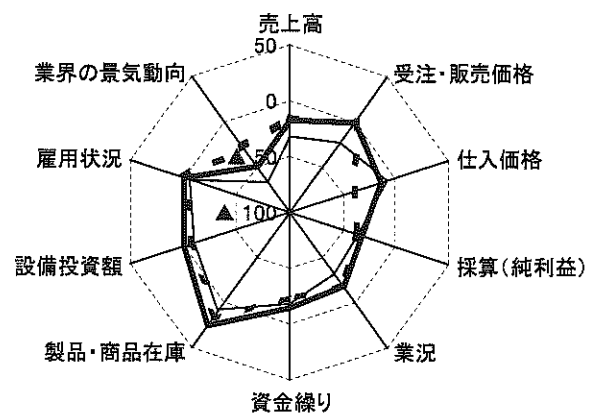
## 【製造業】



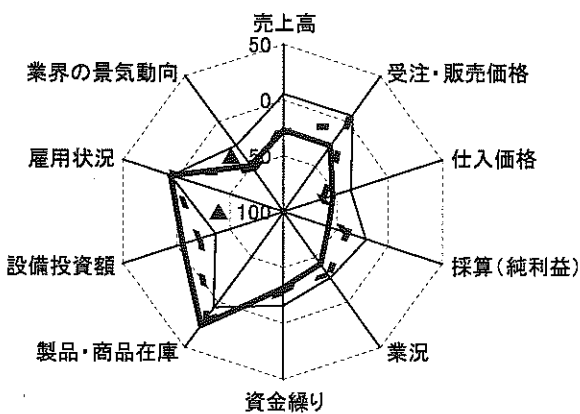
## 【建設業】



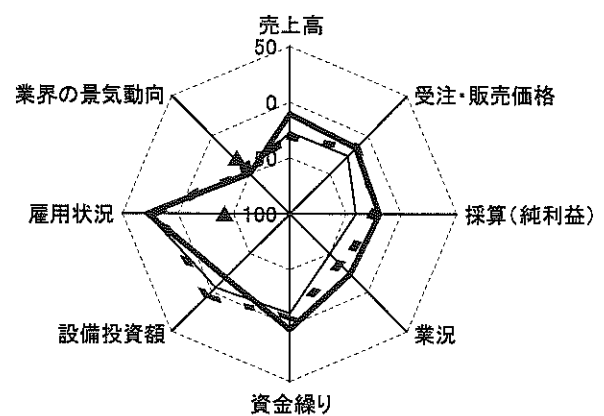
## 【卸売業】



## 【小売業】

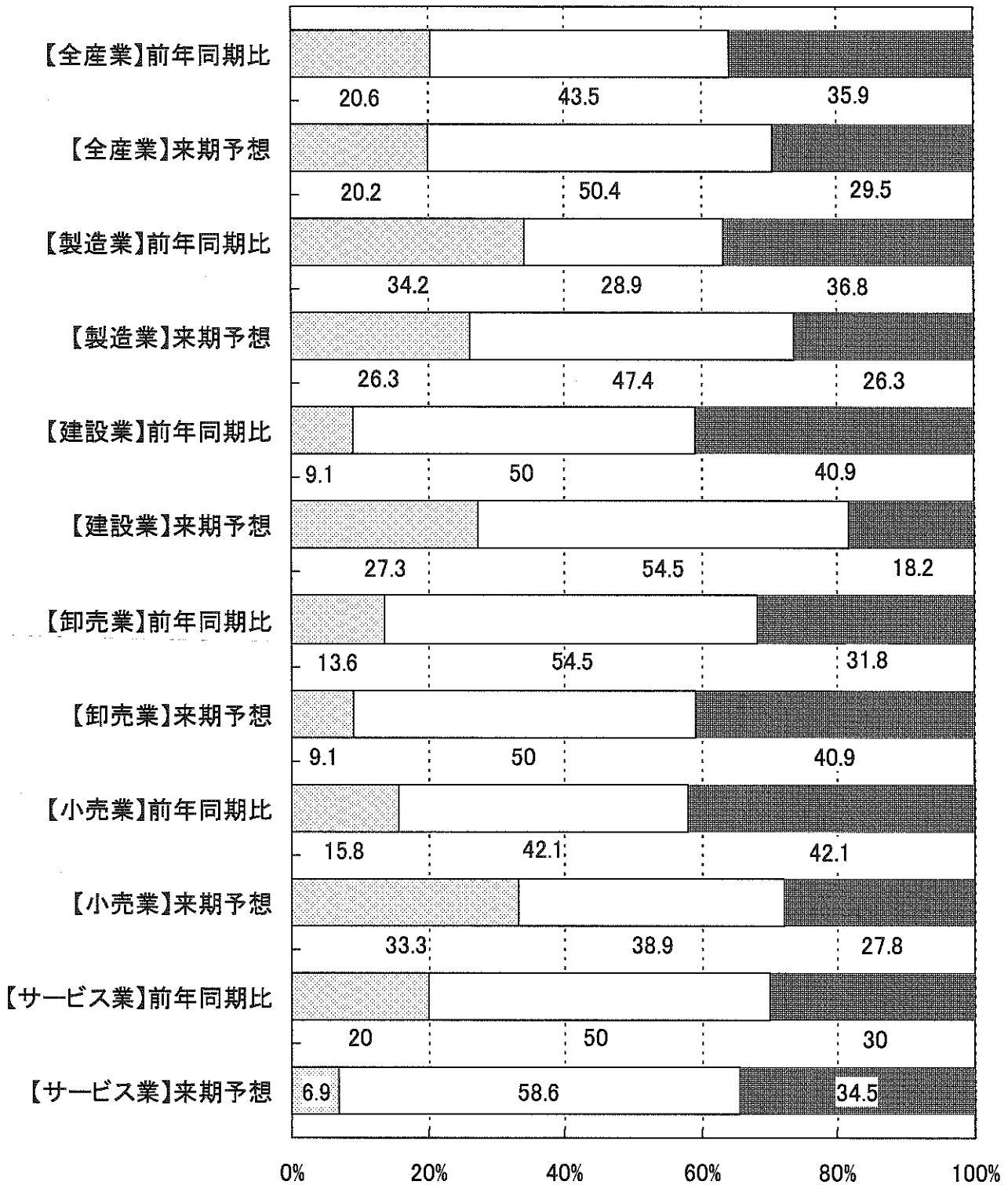
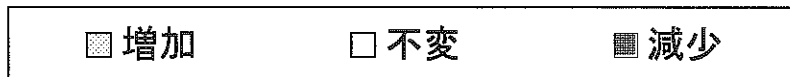


## 【サービス業】





# 売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 過当競争</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減</p> <p>その他 設備老朽化</p>
卸売業	<p>1 位 過当競争</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫／設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／その他の需要の低迷／人材不足</p> <p>その他 人件費高騰</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 過当競争</p>
サービス業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 その他の需要の低迷</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>